

## 知事と区市町村長との意見交換（世田谷区）

令和1年10月8日（火）

11時30分～11時50分

○行政部長 それでは早速でございますが、意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事から一言お願いいたします。

○知事 おはようございます。改めて本日はお越しいただきまして、ありがとうございます。日頃から都政運営に御理解、御協力いただいておりますこと、感謝申し上げます。

それから先日の多摩川の花火大会も秋にされたということで、あの日はとてもいいお天気でもよかったですね。またそうやって非常にいいイベントもそうですし、今日はたぶん待機児童の対策等も出てくるかと思えます。

長期において東京が持続可能な都市であるためにも、世田谷の皆様方の声を聞きたいということでお越しいただきました。時間は短いですが、どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは保坂区長、よろしくお願いいたします。

○世田谷区長 それではこのような機会をありがとうございます。早速になりますが、今おっしゃられた待機児童の対策について、こちらの資料を使いながらお話をさせていただきますと思います。

真ん中の青い部分、これが東京都で緊急保育対策をしていただいた部分の補助の内容になります。早速小池知事就任以来、緊急保育対策取り組んでいただいて、平成27年からの4年間で、世田谷区では71園開くことができました。定員においては5,700名です。大変効果がありました。

それで今日のお話はこの中で令和1年、つまり今年度で終了する補助に整備費の補助が1つございます。この整備費の補助が平成29年で62億円いただいていると。30年は57億円。大変多くの金額をいただいています。

もう1つ、土地の賃貸借の補助。これは実は世田谷区大変に苦戦しまして、土地が高いと。年間1,500万円の土地ということになると、事業者が参入してこなかったんですね。

それで区の方で3分の2は、これはもう土地は待機児童対策で緊急に持ちましょうといった時に、たくさん手が挙がってきて、整備が民有地で進んだのですが、さすがにそれがどんどん増えましたんで、財政負担が大変だということで、塩崎厚生労働大臣時代に要請しまして、国の方でも一応こちらについても出していただくということになりました。

この2つが整備費において相当額、50億、60億というお金。また、こちらの土地の賃貸借については国が半分、都がおおよそ4分の1出していただいています。

これが今年度で一応終了する計画になっているというのが1つと、2番目に私もこの4月の選挙で3回目の当選をしましたが、この時に実は駆け寄って来る保育士さんが何人もいたんですね。それは保育士の宿舎の補助を、これは期限で終わらないでくださいと。実は世田谷区で2,000名の保育士が宿舎補助を活用しています。大変、保育士確保に有効な施策なので、これは実は国と都と、令和2年度で一応終了するということになっております。

現在、470人の待機児が世田谷区におりますので、ここでこの制度が仮に終わってしまうと、大変人材確保も、現場も難しくなるということで、ぜひこの点は待機児対策は0に近付いているけれども、まだまだ気を抜けないというところで、継続をお願いしたいということが1点でございます。

2点目が、世田谷区で聖火リレーの東京都におけるスタートが駒沢オリンピック記念公園で行われるという嬉しい決定がございました。ここにできるだけオリンピック、我々の区では馬術競技大会、アメリカ選手団のキャンプってありますけども、大勢の子供達が参加できる機会というのはなかなかないんですね。

ですから、この聖火ランナーのスタートというところに小・中学生だとか、少しスタートする前に区で盛り上げのイベントをやったりとか、もう1つ、64年の聖火台もここにございます。こういったものを活用したり、サポートランナーも少し増やしたりと。駒沢公園広いのでお願いをしたいと思います。

3点目は、今のところ国でも都でも取り組みが始まったと聞いておりますけれども、引きこもり対策についてです。この引きこもり対策については、世田谷区で5年前から、ちょっとお手元にこういった活動報告書をお配りしていると思うのですが、引きこもりの相談をやっていくということで取り組んできました。

5年間で1万2,900件。かなり多くの相談延べで受けていまして、現在登録している方は255名。機能としては相談だけではなくて、居場所もやっています。それから引きこもりの方々ですからアウトリーチ、こちらから行ってお話を聞くということもやってございます。

ただ、この間、引きこもりは40代以上もというお話も出てますので、こちらは挟み込込みである民生児童委員に1軒1軒訪問してもらって調査をいたしました。

4ページに円グラフがあるのですが、我々も衝撃だったのは、年齢が分かった方の中で、10年以上の引きこもりがなんと44%もいらっしやると。10年以下は16%に留まっているんですね。

それから年齢分布ですが、40歳以下だと分かった人は14人。40歳以上の人は26人もいて、60代の方もいらっしやるということで、これは一応、我々若者支援ということで40歳で切って、40歳以下の相談に乗っているんですけども、40代以上も継続してやらないといけないなど。40歳以下が大体推定4,400人なんですけども、その40代以上も含めると9,000人くらいの当事者がいるだろうと推定されます。

ここにできるだけ細かい面接調査も含めて、実態をはっきり浮き彫りにする。かなりの労力はありますけれども、調査をしたいと思っています。そういう5,000、6,000という単位の実態調査を、区でも一生懸命やりますけれども、ぜひ都で検討されていること、これから議論されていることと連動して役立てていただきたいし、また、聞いていただきたいと思っています。

次に、最後になりますが、いわゆるRE100です。再生可能エネルギー100%を東京都庁でも始められていると聞いています。区でも4月から始めているんですけども、実はこちらの写真が、長野県におきまして水力発電所がたくさんあると。大分お互いが制度を探り合って、

長野県の水力発電所の電気を世田谷区の保育園 40 園で使っております。

これが直接連携ができて、電気だけではなくて木のおもちゃとか、お米とか、そして世田谷区の子供達が向こうに行くというような、そういった交流も生まれているんですが、まだまだ広げていきたいんです。

東京都が水力発電所をお持ちなので、ぜひこの長野県の方も、いわゆる都市部の自治体に供給することと条件を付けて、いわばその事業者に入札等かけているのですが、ぜひ地産地消で、東京都さんの自然エネルギーを我々としても使いたい。ぜひこれはお願いしたいと。以上でございます。

○知事 ありがとうございます。いくつかの点での御説明をいただきました。まず待機児童対策ですが、3年前は860人、そして次の年も半分ぐらいに激減して、そして今470名という数字を押さえさせていただいております。

今、いくつかのとても具体的なお話がありました。確かに私自身が知事に就任して、緊急補正予算を組みまして、また、本当のニーズというか、いかにして保育士さんを確保するかというところで、もちろん報酬、お給料もそうですし、住む場所というのはやはり一番大きいということから、それも含んだ緊急補正予算を組ませていただいたところです。

待機児童対策問題というのは、都民にとっても大変優先度の高い課題でございますから、取り組んできたわけではありますが、平成29年度の予算からは強固で弾力的な財政基盤の構築ということで、待機児童対策だけでなく全ての事業に終期を設定しまして、そこで効果の検証を行いました。

それによって施策の効率性や実効性を高めるということからも、この課題は集結したということで、ずっと引かれたレールをそのままというのではなく、メリハリも付け、時代の流れ等も考えながら進めてきたわけです。

待機児童対策については、継続は令和の来年度予算の編成の中で検討していきたいと考えております。また、全体の保育施策の方向性については、今日もお話伺いました。今、ちょうど策定中でありまして、第2期の東京都子育て支援総合計画、こちらの方に反映をしながらお示しをしていきたいと考えております。

それから2つ目が不登校と引きこもりのお話で、都の方の体制も、例えば引きこもりにについては今8050という、このような数字が示されるように、年齢は特に若い人とは限らないどころか、むしろ40代、50代が多いというのが実情であろうということからも、都庁の組織編成もそれに並行して変更もさせていただきました。

引きこもりにについては、今年9月に引きこもりにかかる支援協議会を開催をいたしまして、これは年齢によらず、切れ目のなくかつきめの細かい支援に向けて、当事者の皆さんや家族の状況に応じた支援の在り方について、議論を始めたところでありまして。この協議会には、それぞれ区市町村からも参画いただいておりますので、協議会での御意見も拝聴しながら、適切な対応を進めていきたいと思っております。

それから不登校についてでありますけれども、やはり複雑な心理と言いましょか、いろんなことがきっかけになって不登校になるわけであると、このように承知しております

けれども、心理や福祉の専門家等を都の連携で、それから学校だけでなく、様々な教育の機会を提供するという事は、不登校対策について重要と考えてます。

御承知のように、都は全ての公立の小・中学校にスクールカウンセラーを配置しております。それからスクールソーシャルワーカーの配置を希望する自治体に対してはその経費の補助を行ってきたところでもあります。教育支援センターの機能を充実したり、それからフリースクールとの連携の充実に向けた取り組みも行ってきたということでもあります。

特に区長におかれましては、不登校の子供達をどうすればいいかということには、これまでも熱心に取り組んでおられました。この世田谷区の連携を図りながら、この不登校の児童や生徒の学校に戻るきっかけづくりや、また自立に向けた支援の充実を図っていきたいと考えております。

最後に私の方から環境についてお話をさせていただいて、あと副知事の方から1つ聖火についてお伝えしたいと思います。RE100を既に宣言をしておられる、熱心に取り組んでおられると思います。

世田谷区では今お話ありましたように、小売り電気事業者を通じての調達をされているということからも、既に実績を上げておられるわけでもあります。今お話ありました奥多摩の方の水力発電なんですけど、これは公営企業として競争入札で行っておりまして、高い値段で購入していただく事業者にお売りするという事になっております。

そこで今後ですが、水力発電という環境的な価値も高いわけでございますので、電気の売り先を決める方法を研究していきたいと考えております。

やはり東京は最大のエネルギー消費地でありますし、再生可能エネルギーの利用の拡大に関しての取り組みは重要だと、現在の都では考えておりますので、引き続き世田谷の取り組みを応援していきたいと考えております。

もう1点は聖火について、副知事の方からお願いします。

**○副知事** それでは聖火についてでございますけれども、都内の聖火リレーの出発地は1964年大会のレガシーである駒沢オリンピック公園に決定したところでございます。

今後は出発式をはじめ、聖火リレーを盛り上げる工夫、今区長からも小・中・高生の参加等、いろいろお話ございましたが、そういった盛り上げる工夫が大切かと思っております。

ただ一方でいろんな制約、ルールもあるようでございまして、64年大会の聖火台について、火を入れることにつきましてはIOCにも確認をしたんですけども、やはり今大会ではそこに火を入れることは難しいというようなお話も受けております。

また、サポートランナーについても、やはり全国共通の人数等に関するルールがあるということで、なかなか盛り上げたい気持ちはあるんですけど、そういったルールにも沿っていかねばならないということでございますので、都といたしましてはそういったルールとの調和を図りながら、世田谷区さんと連携しながら、聖火リレーの盛り上げにいろいろ工夫を凝らしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

**○世田谷区長** 時間がそろそろだと思っておりますので、児童相談所なんですけど、お陰様で東京都にも全面的に協力いただいて、いよいよ来年4月に児童相談所69人、一時保護所43人、

全部で112人で、専門職も多く集めることができました。

これからは広域で調整を東京都の方と図っていくということを、今実務で協議しております。ぜひよろしくをお願いします。

○行政部長 よろしいでしょうか？ではそろそろお時間になりますので、最後に知事から一言お願いいたします。

○知事 ありがとうございます。待機児童、一番世田谷区は多いということ、いつも注目されるんですが、でも1つのまさしくメルクマールだと思いますので、これからも子育てができる、しやすい、そのような東京づくりということで、また連携させていただこうと思います。よろしくをお願いします。

○知事 これで意見交換を終わらせていただきます。本日はどうもありがとうございました。